

「水俣病」で流血の惨事

国会よりやく動き出す

二千の漁民、工場に乱入

水俣病問題は、一日流血の惨事を招いてしまったが、このような動きのなかから、国会などでも本気に取り上げる様子を窺えてきた。

衆議院の調査団が現地に乗り込んだ二日、早朝から不知火海区の漁民三千人は水俣へ集まった調査団への陳情と漁民の総決起大会をひらくためであった。ところが正午すぎ会社側の同交拒否にあったことから予定の決起大会も取り止め、さらに前日工場がさきの第二回漁民大会での漁民八人を告訴したことも刺激して、工場への乱入となった。第一回の乱入が午後一時五

十分から、第二回目も午後六時十五分からで、施設や器材をたたきこわし出動した警察隊三百人と衝突して双方に百人以上の重軽傷者を出した。工場側の損害は二千万円にのぼるといふ。

漁民側の計画では、大規模なデモで衆院調査団に窮状を印象づける予定だった。総決起大会のあと工場長に決闘文を渡せばよかったのだが、中食時に酒気をおびたものが動きだしてついに乱入となってしまう。リーダーは「制止するヒマがなかった」といっているが警察側は「隠された予定の行動ではなかったか」とみている。いずれにしても漁民側指導者の統率力の不足が騒ぎの大きな一因となって

いるようだ。暴力はあくまで排撃されなければならない。しかし漁民たちをここまで追い込んだ問題の本質を見失ってはならない。工場側の同交拒否、県市当局の無為無策、どれもこれもが「敬遠」しているような空気がなかったのだろうか。漁民たちが「見捨てられた」と感じるものはないとの見方もある。

衆院調査団、工場側を追及

いっぽう現地入りした衆院調査団一行十七人は患者を慰問してその悲惨さに驚いた。三日には工場側代表と会って廃水処理などを聞いたが●船大との対立感情を捨てて原因究明に協力せよ●設置を急いでいる廃水の浄化装置をなせもっと以前につくらなかったか●会社も道義心を起せなど激しく工場側を追及した。そして松田団長は「特別立法の要はないと思う。各省の責任のがた的な態度を止めさせ一丸となって当らせる。掃海は簡単にできるだろう。早急に手を打つ」と語った。

県議会でも特別委から臨時県会の要請があったが六日議運委で●守本知事が七日から工場と漁民の間に立って誠意をもって仲介する●県は中央の情勢を考慮しながら臨時県会をいつ開くか検討するという折衷案で話合いがつき「工場公害防止条例制定のための臨時県会招集」はしないこととなった。なおこのほか六日には参院農林水産委で問題を取り上げたものをはじめ、社会党の国会対策委でも水俣特別対策委を結成するなど、ようやく肉をあげての関心事となってきた。

「宅地転用には現ナマ」の題

農地の宅地転用をめぐる熊本市農繁委の不正事件が、四日朝南署と農務本部捜査二課の手入れて明るみに出た。現委員二人と元委員一人が五日夕方収賄の疑いで逮捕された。「農地転用の許可を上げるためには農繁委員会の有力者に現ナマを積ませないとダメ」といういわさが流れていたといわれ、警察当局は不正が半ば公然と行なわれ、委員が職権を乱用する恐ろしい悪質の増収期事件とみている。なお昨年同委員会に許可申請された宅地転用は千四百六件、約三千九・九万である。(N)